



全国31番目 「香川支える会」結成（5月23日）



7月に入つての西日本を中心とした豪雨は愛媛でも未曾有の被害をもたらした。被災された皆様に心からのお悔やみとお見舞いを申し上げます。南予に住む仲間の自宅も一部浸水したが、地域の方に助けられました。しかし、伊方原発がある。地震・津波・豪雨、人は自然の猛威には勝てないことを肝に命じるべきだ。未だに原発事故による影響が残る中で、来へ向けてこのまま再稼働することなく廃炉の決断をしてほしい。

私も
応援します

「支える会」結成に繋がった 2人の出会い

愛媛労連 烏谷律子

私とJAL争議団との最初の出会いとなった2011年。その年の3月11日に発生した東日本大震災の甚大な被害を受けて、被災者救済・復興の支援募金を街頭で呼びかけていたときでした。募金箱と配布チラシを両手に持ちながら呼びかけている私を見て、「手伝いましょうか?」と声をかけて来る見ず知らずの2人の女性がいました。その女性たちは、新聞に折り込んだ行動への参加を呼びかけるチラシを見て来たと言い、ビックリするやら感激したことを覚えています。その女性たちが林恵美さんと大池ひとみさんでした。この出会いが「愛媛原

告を支える会」の結成に繋がり、解雇撤回・職場復帰の闘いに続いています。

解雇は許されないことですが、この闘いがなければ、一見華やかに見えるパイロットや客室乗務員がどれだけ過酷な環境の中で、乗客の安全を守りサービスを行っているかわかりませんでした。

今、「女性が輝く社会」とか「女性の活躍」としきりに言われていますが、政府や大企業は、それに逆行するようなことばかり行っています。8年目の闘いとなる今年、この闘いの早期解決が女性の権利を守り発展させる第一歩となるよう支援を続けていきたいと思います。

愛媛支える会の世話人の皆さまは様々な本業を持つておられます。この時季、田植えや耕作放棄地の手入れをしてから活動に参加して下さる方もいて、感謝の意を込めて、この上ない。この世話人のご尽力で5月23日全国31番

JA L経営陣は5月14日、2020年格安航空会社設立発表会にて、同時に解雇争議を解決するため協議を開始する、と両組合（乗員組合・キャビンクルー・ニオン）に伝えた。2010年大晦日に解雇されてから7年半、全国の支援の仲間達と粘り強く活動を拡大・継続してきた大きな成果であることは間違いない。

目になる「香川支える会」が結成された。この日は一回目の解決交渉が行われた日でもあり、その意義は大きい。

松山市在住
林 恵美

（裏面に続く）

解決に向け 全力でたたかう

徳島空港支店要請 5月14日



JR徳島駅前宣伝 5月14日



6月5日 えひめ母親大会（東温市中央公民館）



7月10日 西日本豪雨被災地支援ボランティアへも

6月19日、株主総会では植木前社長が山口パイロット団長を最後に指名し、「解決へ向け誠心誠意話し合っていく」と応えた。山口団長は「最高裁で断罪された不当労働行為を真摯に受け止め、解雇争議を解決し安全運航に邁進して頂きたい」と発言。千人超の会場は拍手に包まれた。これまで毎回参加していた

山口団長には見張り番を配置し、決して質問させなかつた対応からすれば劇的な変化である。この瞬間、植木氏の発言は解決へ向けて後戻りできないJAALの公約となつた。毎回原告と共に参加して解雇争議について発言して下さった支援者の奮闘があつてこそその会社対応であることを忘れてはならない。

組合と会社の間で今日まで3回の協議が行われているが、誰もが納得できる回答は未だ得られていない。JAAL経営は植木氏が発言したように誠実に対応してほしい。私達は労働者の尊厳と空の安全を守るために、支援者・組合と力を合わせ粘り強く闘いを続けよう！